

令和7年度

三好市立篠生小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 少人数による個に応じた学習の充実を図る。
- 言語力を高める学習の充実を図る。
- 家庭と連携し家庭学習習慣の確立を図る。

校長

石丸 秀樹

学力向上推進員

近藤 猛恭

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や研究授業、教員からの報告等の機会を設け、取組み状況の把握を行う。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○漢字プリントや計算ドリルなどを朝の活動時に行ってきたため、基礎的な力は身につけてきている。</p> <p>○復習内容のプリントやタブレット端末などの利用の機会を多くもつことで、知識の再構築を行えた。</p> <p>●国語の総合的な力の弱さが見られる。前学年で学習した漢字の習熟が十分でなく、それらの言葉の意味を把握していないことが多い。語彙力や読解力が低いことも課題である。</p>	<p>・基本的な読み書き計算などの技能をしっかりと身につけて、活用することができる。</p> <p>・本に親しむことで、語彙力を増やし、長い文章でも内容を理解できる。</p> <p>・身につけた知識を用いて課題を解決できるような主体性を培う。</p>	<p>①引き続き、前学年で学習した内容のプリントやタブレット端末などを冊用して学習する機会を設ける。</p> <p>②全校で1年間に1000冊を読むことを目標とし、実践する。</p> <p>③辞書を引かせたり、文章を読んで大事だと思う箇所には線を引かせたりする。</p> <p>④授業内に前時の授業復習を組み入れる。</p>	<p>全国学力・学習状況調査並びにステップアップテストの結果分析から、6年生は読むことの正答率が低いことがわかった。そのため、辞書で言葉を増やすことや、こども新聞で言葉を読むよう促すことにした。日記などの文章を書くときは、習った漢字を使うよう意識付けをしたり、5W1Hの文章構造の習慣化を目指したりおこなった。また、キーワードを見つけたら要約する学習を取り込むなど授業改善を進めることに決定した。5年生は書く力が弱いことがテストの結果からわかった。ふり返り活動に視点を加えたり文字数を設定したりして工夫を取り込むように</p>	<p>基礎的な計算力や加減乗除の技能は着実に向上し、漢字もスモールステップによって少しずつ定着してきているが、見直しの習慣や継続的な反復練習が引き続き必要である。タブレットの活用は十分とは言えないものの、ブラインドタッチは一定程度身についた。読書量は「1000冊」を目標に積極的に取り組み、新聞や読書の時間の増加によって語彙に触れる機会は広がったが、文章理解やキーワードを捉えて要約する力の向上には十分結び付いていない。全体として、知識・技能は蓄積されてきているものの、文章問題や生活場面への活用を含め、知識と課題解決を結び付ける段階には至っておらず、今後の課題である。</p>	<p>朝の時間の活動内容をより明確にし、隙間時間を活用して読書量を増やせるようにするとともに、計画的に復習時間と読書時間を確保していく。また、幅広いジャンルの読書に取り組ませることで興味関心を広げる。さらに、四則演算が生活や仕事にどのように結び付くかを意識させ、実際に活用させる声掛けを行うなど、ゴールを見据えた授業づくりを進め、知識と課題解決を結び付けていく。</p>

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○知識を体験的な学習活動に生かせる場面も増えてきた。</p> <p>●学習した知識を生かして考えたり、答えを導き出したりすることが難しく、「わからない」と諦めてしまうことが多い。そのため、自分の言葉で考えを発表することは消極的である。また、語彙が不足しており、相手意識をもって筋道を立てて説明することが苦手である。</p>	<p>・習得した知識を他の学習や場面でも活用できるようにする。</p> <p>・目的や相手に応じて適切に話することができる。</p> <p>・自分と他の人の意見を比較して考える習慣を身につけることができる。</p>	<p>①ICT機器の効果的な活用方法について、ICT支援員とも連携して教職員の研修を深める。</p> <p>②身につけた知識を用いて課題を解決できる学習活動を増やす。</p> <p>③ホワイトボードやタブレット端末を用いた発表や話し合い活動をさせる。(オンラインも含め)</p> <p>④全校での話し合い活動、集会、学級会などの活動を計画的に取り入れる。</p> <p>⑤「徳島版読解力」を生かして個々に応じた指導方法の工夫改善に努める。</p>	<p>全国学力・学習状況調査並びにステップアップテストの結果分析から、思考力・判断力・表現力への課題が顕著に表れた。また、アンケートから新聞を読んでいることや読書への苦手感を持っていることがわかった。そのため「徳島版読解力」を各教科に生かせるようにした。例えば、思いついたことを書き留める活動や、交流の中で残った他者の言葉や表現を書き留める活動など各学年や児童実態に合わせて組み込</p>	<p>タブレット端末を効果的に活用した授業は十分とは言えなかったが、個々の発表は着実に向上してきた。全校・学級での話し合い活動や振り返りの時間を確保したことで、目的や相手に応じて話す場が増え、他者の意見と比較しながら自分の考えを深める姿が見られるようになった。国語科では、身近な相手を設定することで相手を意識した文章を書くことができた。一方で、話し合い活動のさらなる充実と、習得した知識を活用する段階には依然として課題が残っている。</p>	<p>タブレットを効果的に活用して授業改善を図るとともに、個人の発表力を高め、話し合い活動の機会を意図的に増やすことで主体的な学びを一層促進する。振り返りを継続しながら話し合い活動をさらに活性化させ、他者の意見を踏まえて考えを深める力を育成する。また、読書やドリル活動を児童の選択制とすることで判断力や主体性の向上を図るとともに、授業で学んだ内容を生活の中でも活用できるように、声かけや指導方法を見直し、適応力の育成につなげていく。</p>

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○与えられた課題をこなし、パターン化された表現の練習等には、意欲的に取り組む。</p> <p>○朝のドリルや教科の学習はまじめに取り組む。また、苦手なことにも前向きに取り組む児童が増えてきた。</p> <p>●読書に親しむ子どもは増えてきているが、全体的に十分とは言えず、家庭での読書習慣の定着が課題である。</p> <p>●できない、わからないが授業内に出てくると、粘り強く取り組めない様子が見られる。</p>	<p>・学習課題に進んで取り組み、学ぶ楽しさやできる喜びを感じ、自信をもつことができる。</p> <p>・自分の学習状況を振り返り、自分の課題を見つけ解決することができる。</p> <p>・読書に親しみ、家庭でも読書をする習慣を身につけることができる。</p> <p>・課題が見られた際に自分で調整して課題解決を目指すことができる。</p>	<p>①毎時間のめあてやまとめの書き方等、板書やノート指導について改善を図り、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。また、振り返りの時間を設定し、自己の学びを深めることができるようにする。</p> <p>②タブレット端末などを活用し、自ら課題を見つけ学習に取り組む機会を設ける。</p> <p>③毎週火曜日の朝の活動は、地域の方による読み聞かせや読書の時間にする。本を読んだ後や行事の後は、感想を学級や全校などで発表する機会を設ける。</p>	<p>全国学力・学習状況調査並びにステップアップテストの結果分析から、授業内容について主体的に取り組もうとしている児童が多い。わからない問題でも意欲的に挑戦する場面も増えてきている。また、アンケートから自身の学習課題を見つけられていることもわかった。そのため、教員の取り組みがより充実するように継続していく。さらに、児童の意欲向上のため、学習ガイドを使うなどをして授業改善を段階的に進めていく。</p>	<p>めあてやまとめの徹底は十分とは言えないものの、授業の流れを掲示することで見通しをもって学習に臨み、時間内の課題は順ね達成できてきた。読み聞かせには毎回集中して取り組み、読書も積極的にしているが、読書の良さへの自覚には課題が残る。タブレットやミライシート、自主学習ノートの活用により、自分の苦手を把握し主体的に復習や挑戦に取り組む姿が見られた。</p>	<p>タブレットを活用し、自ら課題を見つけ主体的に学習していく力の育成をさらに進めるとともに、めあて・まとめ・授業の流れの徹底を図り、授業の見通しをもって学習に取り組めるよう継続して指導していく。また、空き時間を意図的に設けて読書を選択できる場をつくり、電子図書の利用も含め家庭での読書習慣の定着を目指す。さらに、タブレットを活用した柔軟な宿題の在り方を検討し、端末を使った自主的な学習の継続と充実につなげていく。</p>